

第6回衛星測位に関するワーキンググループ 議事要旨

1 日 時

令和8年3月17日（火）9:00～9:30

2 場 所

オンライン会議（Teams 会議）

3 出席者

(1) 委 員

中須賀座長、片岡委員、小川委員、小暮委員

(2) オブザーバ

日本経済社会推進協会・坂下常務理事、情報通信研究機構・門脇主席研究員、海上・港湾・航空技術研究所・坂井領域長、中部大学・海老沼教授、東京海洋大学・久保教授、宇宙航空研究開発機構・瀧口理事、東京大学・五十里准教授、麗澤大学・柴崎副学長、慶應義塾大学・神武教授

(3) 事務局（内閣府宇宙開発戦略推進事務局）

三上参事官、長谷参事官、岸本企画官

4 議事要旨（○：意見等）

(1) 準天頂衛星システム「みちびき」に関する最新動向について

事務局から資料1に基づいて説明が行われ、委員から以下の意見があった。

- 基盤インフラは自国で確保しておくことが重要。これまで、みちびきはGPS補完であったが、これからは独立インフラとなる。今回5号機を喪失したが、測位基盤の確立のため、7機体制、11機体制の早期実現、また1次産業にも利活用が進んでいるため、今後も利活用促進を継続頂きたい。PNTは重要な概念であるため、次期地理空間情報活用推進基本計画にもその旨を明記頂きたい。
- 高精度化・高信頼化に向けてソフトウェアの対策は進んできている印象。一方で、原子時計の高信頼化や国産化などハードウェアに関する取組も進めるべき。
- 宇宙戦略基金「SX-CRANE」に次世代PNT技術開発拠点が採択されたことを歓迎。PNTの高信頼化・レジリエンス強化のみならず、企業と連携しながら社会実装に向けた開発を進めるとともに、連携機関の大学法人での若手の登用と国際学会での発表等に注力することが重要。実施体制は今後も拡充される予定。
- 一方、「SX-CRANE」における次世代PNTの共同研究にJAXAも加わるべきだが、宇宙戦略基金の取組にはJAXAが関与できないため、その点は課題。制度の見直しも含め検討いただきたい。
- JAXAの関与を深め、技術アーキテクト・デザインオーソリティ・研究開発の役目を高めて、「民間×JAXA×内閣府」で宇宙産業エコシステムを作ることが必要。

以上